

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
<http://www.saitama-kendo.or.jp>
(編集責任者 川合育三)

第13号 平成30(2018)年2月1日発行

(題字 元会長 野澤 治雄)



形武道だからこそ…

上田 花代子

(杖道教士八段・剣道錬士六段)

かつて全日本剣道選手権大会における杖道公開演武の折には「全日本剣道連盟杖道は、今から約四百年前、夢想権之助勝吉により創始された神道夢想流杖道を起源とし、昭和43年に基本12本・形12本が制定され、攻撃を主とせず相手の変化に応じて制圧するのが本旨であり、左右等しく使う杖道は体育方面から見ても有効・適切な武道であります。」と紹介されておりました。この全日本剣道連盟杖道は、本年度で制定され50年を迎えます。私自身この全剣連杖道

から稽古を始め、師匠より許されたのち、神道夢想流杖道を学び始めました。

杖道の稽古を始めた頃は剣道4段を受領したばかりの19歳の時でした。師匠・米野光太郎先生(杖道範士九段)より「杖道の稽古は剣道の近道だぞ!」とお話を伺った時は、まだまだその意味も理解していませんでした。しかし時を重ね二道の稽古を続ける内に、その意味が少しずつ感じられるようになりました。

杖道は一切の防具を使用せず、打太刀は気の充実した機会をとらえ、切る・突く、仕杖はそれを見切って捌き、その攻撃を制圧し、打ち止めるという形武道であります。その技の数々はただ形や順番を追えばよいものではありません。

剣道の攻防のように、相手がどのような手で仕掛けてくるのか、また自らが仕掛けるのかを、瞬時に判断し勇気を持って打突するものではありませんが、杖道はその攻防が決められているからこそ、相手の動作を見極め、機先を制する力を養えるのです。それには、如何なる相手の攻撃にも対処できる身構え・気構えが必要であり、こと身構えにおいては「自在に体を操れる構え」でなければなりません。

また「自在に体を操る」とは、好き勝手に動けるというものではなく、いかに効率的で無駄のない体捌きができるかということです。これには大変な我慢が必要となります。

決められた約束動作の形武道で得られるものはまだまだたくさんあると思います。今後も更に、杖道に精進し、師匠の言葉の意味を深めて参りたいと思っております。

最後に、杖道の古歌には「傷つけず 人を懲らして戒むる 杖の教えは外にはやある」とあります。私はこれこそが「礼節」だと感じております。

「礼節とは 人と人とが交わるにあたり まず相手に敬意を表することに発し 人と人との交際を整え 広く社会秩序を保つものである 武道を学ぶものは 外に礼儀を重んじ 内に礼の精神を深めることが肝要である」

この教えは、今も、日本武道館小道場の壁に掲げられております。

杖道という形武道だからこそ、自身の姿を見直せる気がいたします。師匠に、そして杖道に感謝の日々でございます。

大会記録

◆県中学総体（7月24、25日・県武道館）

- ▽男子団体 ①春日部大沼（高橋、岡本、浅田、浅崎、北野）②北本 ③城北埼玉 ③川口芝
▽同個人 ①清水雅哉（川口芝）②北野（春日部大沼）③安村（さいたま三室）③前泊（城北埼玉）
▽女子団体 ①春日部大沼（竜崎、坪井、小川亜、平吹、小川真）②川口戸塚西 ③北本 ③吉川南
▽同個人 ①小川真英（春日部大沼）②佐々木（吉川南）③坪井（春日部大沼）③池田（越谷栄進）

◆県高校総体

（6月3日、7月19、20、24、25日・県武道館）

- ▽男子団体 ①本庄一（山本、新井、井田、畑中、泉）②立教新座 ③大宮東 ③埼玉栄
▽同個人 ①中嶋将太（立教新座）②渡部（立教新座）③大嶋（大宮東）
▽女子団体 ①本庄一（土田、櫛淵、佐藤光、佐藤未、板倉）②埼玉栄 ③淑徳与野 ③伊奈学園
▽同個人 ①安達小粹（淑徳与野）②佐藤光（本庄一）③川井（埼玉栄）

◆高校定通総体県予選

（6月21日・富士見高校）

- ▽男子個人 ①平賀大樹（大宮中央）②梅沢（クラーク）③竹内（戸田翔陽）④小高（霞ヶ関）
▽女子個人 ①奥崎愛理（大宮中央）②室加（大川学園）③繁田（同）④鈴木（戸田翔陽）

◆第26回県高齢者大会（5月20日・県武道館）

- ▽60歳以上65歳未満 ①為谷昇（久喜）②長谷川（越谷）③浅野（川越）③手島（熊谷）
▽65歳以上70歳未満 ①島村勉（羽生）②瀧内（狭山）③久保（西入間）③藤原（川越）
▽70歳以上 ①川下紘生（久喜）②渡辺（東松山）③會田（浦和）③小能（越谷）

◆第12回全日本都道府県対抗少年優勝大会県予選（7月15日・県武道館）

- ▽代表順位 ①倉田大翼（越谷）②増淵（熊谷）③宮川（川口）③川邊（戸田）⑤井上（西入間）

◆第59回全国教職員剣道大会

（8月5日＝県武道館）

- ▽男子団体 ①埼玉（中山、竹内、木野内、保坂、三谷）※埼玉は48年ぶりの優勝

- ▽女子個人 ①山村貴恵（春日部大增中）※山村は初出場での優勝

- ▽個人幼・義務教育の部 ②中山直樹（本庄東）

◆県選手権兼全日本選手権県予選（9月2日・県武道館）

- ▽代表順位 ①足立柳次（警察）②嶋田（警察）③橋本（東松山）

◆県中学新人大会兼県剣道大会中学の部（11月8、9日＝県武道館）

- ▽男子団体 ①川口芝（橋本、平吹、土井、山口、清水）②本庄一③春日部大沼③北本
▽同個人 ①浅田真吾（春日部大沼）②清水（川口芝）③浅崎（春日部大沼）③岡本（春日部大沼）
▽女子団体 ①春日部大沼（横川、丸尾、坪井、望月、小川）②本庄一③さいたま泰平③越谷栄進
▽同個人 ①島田紗莉（本庄一）②柳（北本）③岡野（久喜菖蒲）③白倉（川口芝）

◆県剣道大会小学生の部（11月5日＝県武道館）

- ▽団体 ①川口A ②熊谷A ③秩父③越谷B
▽個人3年生 ①鈴木心士（西入間）②工藤（朝霞）③伊東（越谷）③宮本（蕨）▽同4年生 ①吉川栄汰（秩父）②江田（狭山）③小澤（同）③石井（北本）▽同5年生 ①太幡晴人（秩父）②廣政（草加）③黒澤（秩父）③金子（川越）▽同6年生 ①市川菜月（西入間）②井上（同）③亀田（上尾）③須田（朝霞）

◆県剣道大会高校の部（11月14日＝県武道館）

- ▽男子個人 ①山口（立教新座）②古賀（松山）③森部（ふじみ野）③足達（浦和）▽女子個人 ①大野（東農大三）②野沢（ふじみ野）③高木（秋草学園）③鈴木（淑徳与野）

◆県剣道大会一般の部（11月23日＝県武道館）

- ▽女子の部 ①山村貴恵（春日部）②清水（高校）③松本（東松山）③志藤（同）▽男子四段以下の部 ①頼松慎治（警察）②羽場（高校）③図末（東松山）長峰（北本）▽同5段以上の部 ①嶋田貴文（警察）②内田（東松山）③生沼（警察）③田島（同）▽夫婦の部 ①木村哲朗・美緒（狭山）②佐藤尊敬・美紀（大宮）③大関貴敏・麻里（川越）③末武秀勝・あさ美（同）

第59回全国教職員剣道大会優勝

～『チーム埼玉』の素晴らしさ～

埼玉県 監督 森田 智裕

平成29年8月5日、第59回全国教職員剣道大会が埼玉県立武道館で開催されました。51年ぶり2度目の地元開催にあたり、埼玉県の教職員・スタッフ一丸となって大会準備を進めてまいりました。その中で、本県が47年ぶりに団体の部（先鋒：中山直樹、次鋒：竹内祐樹、中堅：木野内悠介、副将：保坂武志、大将：三谷豪秀）で優勝、女子個人の部で山村貴恵選手が優勝、幼・義務教育の部で中山直樹選手が準優勝したことは、関係する皆様のおかげと深く感謝する次第です。

団体戦は鹿児島を倒して勝ち上がってきた岐阜との2回戦から始まりました。この日絶好調の先鋒中山がコテの一本勝ちで先制すると中3人がつなぎ大将三谷が締めるという幸先の良いスタートを切りました。続く3回戦の滋賀県、4回戦の沖縄ともに先鋒、副将、大将の活躍により駒を進めました。準決勝の佐賀戦ではこれまで切り込み隊長を務めてきた先鋒中山がメンを奪われ敗退すると、続く次鋒竹内もコテの一本負けで絶体絶命のピンチに見舞われました。しかし、ここで中堅木野内選手がメンとコテを試合開始からわずか6秒で奪ってくるという離れ業をやったのけ、続く副将保坂も1分50秒でメンを連取し、大将三谷がリードを守って大逆転で決勝へ駒を進めました。

決勝は、強力布陣の東京に対して先鋒中山が引き分けた後、次鋒竹内が合いゴテからのメンを炸裂させて勝利し流れを大きく引き寄せると、中堅木野内も一本一本から終了間際に相手をコーナーに追い詰めその出ばなにコテを打ち込んで2-0とリードしました。副将保坂が初太刀でメンを奪うものの相手の選手の捨て身のコテとメンを奪われ、2-1のリードのまま大将三谷に勝負が委ねられました。開始間もなく相手がメンに出ようとしたところをコテに抑え、続く2本目は相手が下がったところを真っ直ぐに珠玉のメンを打ち抜き優勝を決めました。

このチームの実質的な強化は1年前の9月から週1回のペースで始まりました。第58回沖縄大会の選手を中心に一次強化、12月の選手選考試合を経て、それぞれのカテゴリーで複数の候補選手を残しての強化を選手登録間際まで進め、選手登録からは、補員メンバーを含め合宿を行うなど、チームワークの育成に努めました。埼玉県剣道連盟の全面的なバックアップをいただき、県の強化練

習に参加し、教員、警察官、実業団、大学生、中・高校生との様々な稽古を実施するなかで、『チーム埼玉』を意識しながら強化を進めました。

候補選手の先生方には12月以降、次の5つのことをお願いしました。

- 1、体調を管理してください。
健康があつての剣道です。試合です。
- 2、稽古を進んでやっていってください。
強化練習だけが稽古ではありません。この7か月間やりこんでください。
- 3、打ち切れる身体づくり、気持ちのつくりをお願いします。
最後はどれだけ攻めて、溜めて、打ち切れるか…そここのところが勝負になります。
- 4、候補選手はファミリーだと思ってください。
男子の団体戦はもちろんですが、女子の個人戦、男子の個人戦もチーム力です。
お互いに強くなる、お互いに勝てるようになる…そのためのつながりを持つようにしてください。
- 5、大会にかかわるすべての人への感謝の気持ちを常に確認してください。

我々はこの7か月間剣道強化に取り組み大会で成績を出すことが使命です。その環境を整えてくれる、またいろいろな形で応援して下さいすべての人に感謝する気持ちを確認していきましょう。

候補選手の先生方は、公私ともに多忙の中、指定された強化以外の稽古にも積極的に参加し、自らの剣道観を高めてられました。そして、お互いに信頼し合い、多くの応援を力に変え、持てる力をそれぞれが発揮したからこそこの優勝でした。今大会の運営の成功、優勝した経験を学校現場に還元することはもちろん、これからの埼玉県剣道の発展の原動力の一つになればと思っております。

最後になりましたが、大会の準備、運営にご尽力いただきました学校関係者の皆様、そして埼玉県剣道連盟、埼玉県剣道にかかわるすべての皆様に感謝申し上げますとともに、『チーム埼玉』の素晴らしさを再確認させていただいたことを録し、第59回全国教職員剣道大会の報告と致します。





「栄光を目指して」

春日部市立大増中学校 山村 貴恵

平成29年8月5日、埼玉県立武道館で開催された全国教職員剣道大会で、多くの支えや応援のおかげで、女子個人優勝という結果を残すことができました。

全国教職員剣道大会は教員を志してから目標とする大会であり、また平成29年に地元埼玉で開催されると聞き、さらに優勝したいという思いは強くなりました。

選手が決まり、約7ヶ月の強化が始まりました。ご多忙の中、森田監督は多くの稽古の場、試合の場を設けてくださいました。森田監督は、「集まった選手みんなファミリーだと思って一丸となって頑張らしましょう」とおっしゃいました。その言葉の通り、家族のように温かく、稽古のときは厳しく、とても居心地の良い雰囲気稽古ができ、稽古をするのがとても楽しみになっていました。

稽古は選手同士だけでなく、高校や県警、実業団などさまざまな所に参加させて頂きました。名前をあげるときりがない程、多くの先生方から声をかけて頂き、大変感謝しております。教員になってからというもの、自分の稽古を行うこと、指導を受けることも少なく、本当に有り難かったです。なので、1回1回の稽古、1本1本の打ちを大切にに取り組むことを心がけました。私は、技術面で足りない所が多くありますが、特に仕掛け技・応じ技・引き技を打つ中で、打突力・打つ前の動作・スピードの技術を上げられるように考えながら稽古やトレーニングを行いました。

試合において技術面はもちろんですが、精神面の部分がとても重要だと考えます。大会当日、どのような気持ちで臨むのが1番最善なのかを考える毎日でした。教員になってから勝った試合を振り返ると、しっかり集中して、妥協した技や場面を絶対に作らないことを前提に、今できる精一杯をやってこようという気持ちで臨んだときでした。なので、当日はとにかく自分ができる精一杯を妥協なしでやることに徹底しようと思いました。

大会当日、地元開催という独特の雰囲気にプレッシャーを感じました。プレッシャーに真っ向から向き合い、精一杯やることに徹底しました。そして、この大会において埼玉県内の多くの先生が関わり、支えて下さっていることへの感謝の気持ちを持って試合をし、気づけば優勝することができていました。埼玉県は団体でも優勝することができました。これもひとえに、監督、選手全員が一丸となり、努力を積み重ねてきたことと、運営にご尽力下さった先生方のお陰だと心から思います。

最後になりますが、本大会を通して、本当に私は周りの方々に恵まれているなど改めて感じました。このご恩を胸に、今後の剣道の鍛錬や子どもたちの指導を行っていきたいと思います。また、子どもたちの成長に貢献できるよう精進していこうと思います。そして、本大会にあたりご尽力くださった学校剣道連盟、埼玉県剣道連盟、埼玉県学校剣道連盟の方々に感謝いたします。ありがとうございました。



「栄光を目指して」

本庄市立本庄東中学校 中山 直樹

私は、3年半前に就職を機に埼玉県本庄市に住み始めました。それまでは、大学に所属していたので、稽古環境にはとても恵まれていました。しかし埼玉に住み始めたころは、どこで稽古をすればいいのか解らず、学校の体育館で一人、素振りや足さばきなどの練習する日々が続きました。そんな私に、埼玉県の多くの先生方や先輩が声をかけてくださり、稽古環境を与えてくださいました。稽古をしていても、優しく温かく指導していただき、諸先生方や先輩のお蔭で、日々充実した稽古を積むことができ、感謝しております。

縁あってこの度、全国教職員大会が埼玉県開催することになり、今まで受けた恩を、埼玉県に結果で恩返しがしたいと強く思いました。約一年前から強化訓練が始まり、埼玉県剣道連盟、高体連、中体連、埼玉県警察、実業団の方々など多くの方に鍛えていただき、万全の状態の本番に臨めました。また、森田監督が常に言われていた、「先を取り、溜めて、捨てきり、つなぐ剣道」を実践することで、自分の剣道を高めることができたと感じています。更には山中会長が、多くのアドバイスをしてくださいました。その中でも、印象的だったことは、「基本稽古でも、約束稽古でも、技が外れたところや、ミスをしたところを必ず打つ。その癖をつけろ」と話してくださり、自分の剣道の考え方が広がる機会にもなりました。

本番が近付く中、ワクワクする高揚感と共に、緊張感も高まってきました。団体戦は、直前まで緊張していたことを覚えています。そんな弱気な私でしたが、団体の礼直後に、会場全体から大きな拍手や声援が起こり、私の心を奮い立たせてくださいました。会場に足を運んでくださり、応援してくださった方々のお蔭で強い心がつくれました。いざ試合が始まると、今までの強化期間の稽古や、会場の声援などすべてが自信になりました。勝ちたいと強く思いつつも、「ここまでやれることをやってきたのだから、打ってよし、打たれてよし、思い切り戦おう」と開き直り戦えました。さらに苦しい状況であっても、練習で徹底していた技を捨てるのが自然と出せたと思います。しかし、上位に進出するに従って、団体戦と個人戦の試合間隔が短くなり、連続で試合をすることが増え、集中力が低下していたと思います。予測は出来ていましたが、一日10試合を消化するのはとても厳しく、集中力の継続と持久力の向上が今後の課題だと感じております。

個人戦団体戦共に結果を出せたのは、強化に関わってくださったすべての方々、ご声援頂いた皆様のお蔭です。本当に感謝しております今後もこの経験を活かし、精進していきたいと思っております。

本庄第一中学校・高等学校の育成

本庄第一高等学校 相川 浩一

本学園は、大正14年に創立し今年度で92周年となる男女共学の私立中学・高等学校を併設しています。学園の変遷は省きますが、現在の本庄第一高等学校は平成5年度より、中学校は平成28年度開校いたしました。

剣道部の創部は平成元年度で、次第に指導者の増員や、施設の充実を図り、現在は師範として鈴木孝宏先生、高校男子監督相川浩一、高校女子監督永久貴子、中学監督草深将也、響生館監督染野大介と5名の指導陣で中学校16名、高校36名の52名の部員と共に日々の稽古に励んでいます。

剣道部の実績としては、平成23年8月のインターハイにおいて女子団体3位、平成24年3月の全国選抜において男子団体優勝、平成29年8月のインターハイにおいて男子団体3位という結果をあげています。

剣道部強化の転機となったのは、埼玉国体でした。本校は埼玉県剣道連盟より、男女の強化指定校に認定され、埼玉国体に向け強化していただき、本校生徒を含む埼玉県チームが男子団体優勝、女子団体準優勝となり全国主要大会で結果を残せたことが大きな転機になったと感じています。

日々の稽古では、特に変わった練習などはしていませんが、剣道部員にはいくつかのポイントを意識して指導しています。

本校剣道部での指導でのポイントは、

- 1 心身の鍛練
- 2 フォームをつくる
- 3 理合いを意識した稽古に取り組む

と考え、常に意識をしながら毎日の稽古をしています。

1 心身の鍛練

剣道部で気を付けていることは、学校の教育活動としての部活動でありますから、学校生活と勉強の土台の上に剣道が乗るということです。授業での姿勢や、勉強に対する姿勢を学校生活でしっかり作ることで、剣道に対する姿勢もできると思います。学校教育の中での部活動では、絶対に学校生活を抜かせないことが心身の鍛練につながると信じています。本校では「本庄第一から気力・知力・体力を備えチャレンジを継続できる人間を世に輩出していきたい」と考えています。剣道を通じて、高校時代に様々な成功体験や失敗体験を繰り返し、妥協することなくチャレンジ精神旺盛な人間作りを目指します。



2 フォームをつくる

低学年より剣道を始めた生徒が多いので、試合慣れはしていますが勝負にこだわり過ぎて、打突のかたちに悪い癖がついてしまっている場合がよくあります。高校時代には、将来的に長く剣道を続けられるように、正しいフォームを身につけさせる必要を感じています。

内容としては、徹底的な基本練習以外にはありません。いい癖がつくまで稽古する以外はないと思っています。多くの時間をかけ、鏡を見ながらの個人練習や、スマートフォンを確認するなどして自分のフォームを作っています。

3 理合いを意識した稽古に取り組む

少年時代より理合いについては道場などで指導を受けていると思いますが、理解できるようになるのが中高生の年代であると思います。改めて、稽古の中で多く取り組むことにより、打ちたい！勝ちたい！だけではなく剣道の楽しさや奥深さを少しでも感じて欲しいと思います。また、この年代は身長や体格の違いが、試合の結果として出てしまうことが多い年代ですが、自分の体格にあった剣道を目指していくうえでも理合いを意識して稽古に取り組むことは大変重要だと思います。

本庄第一では、稽古で合気からの相打ちを多く取り組ませます。さまざまな理合いの中で、一番はじめに取り組む理合いは相打ちだと思われ稽古の中に多く取り入れています。現代剣道では、フェイントをかけての打突や、リズムをずらしての打突などが試合の中では多く見られますが、それらすべては相打ちにはかなわないのではないのでしょうか。

中学生と高校生では体力やスピード面ではかなり違いがありますが、基本的には一緒に稽古しています。地稽古の元立ちも5名、剣道場も試合場3面が取れる恵まれた環境もあります。しかし、大事なことは本庄第一での稽古を通じて何を学べるか、人間的に成長できたか、更に剣道が好きになれたかだと思います。今後さらに剣道を通じての教育活動に取り組んで参りたいと思います。

「我が師を語る」 — 三道範士 長本 寿先生 —

居合道 教士七段 染谷 敏明



長本 寿先生



埼玉県剣道連盟から原稿依頼を受けペンを走らせていますが、師が逝去され既に27年になります。時の経過とともに記憶が薄らぎ思い起こすのに時間がかかります。師につきましては、埼剣連の記念誌「あゆみ」に掲載されましたのでご存じの方も多と思います。

師との出会いは、私が、昭和43年に埼玉県立杉戸農業高等学校定時制課程に赴任したときです。先生は、大柄で眼力鋭く寡黙で野武士のようで近寄りがたく話もできませんでした。そんな折、私が時々剣道部の稽古に行くのを見て、「越谷小学校へ稽古に行きませんか」と声を掛けられたのが始まりでした。越谷小学校での先生の稽古は、面を打ち、体当たり、そして後退の繰り返しで、打って抜ける剣道ではありませんでした。その後、何回か稽古に行くうちに、「居合の稽古をしませんか」と言われ、県立杉戸農業高校の剣道場で居合道の稽古が始まりました。稽古は、定時制

の勤務時間終了後の夜9時頃から11時頃まででした。居合道は、埼玉県内でも稽古をする方が少なく、東部地区では、殆ど居ませんでした。習いたくても指導者が居なかったのが現状でした。先生の指導で杉戸農業高校を会場に始まりました。最初は、数人でしたが草加・越谷からも稽古にみえ、剣道場が手狭になったため体育館に移りました。現在は、県立宮代高校の剣道場を使用して稽古をしています。

先生は、東京都剣道連盟に所属し、埼玉県剣道連盟に籍を移したのは、昭和41年に埼剣連越谷支部に入会した時になります。その後、昭和54年に埼剣連居合道部長として就任しました。埼剣連に初めて居合道が加盟し、初代の居合道部長になりました。

稽古場での先生は、鏡の前で黙々と刀を抜いていました。時折、違った事をしているとツカツカと来て注意しました。言葉少なく教え何度言っても出来ないと怒ってしまいます。事細かく言うので無く見て覚えさせる指導です。あるとき、「切り下ろしが上手く出来ません、どうしたら先生のような切り下ろしが出来ますか」と尋ねると。「私も、何回振り下ろしても満足のいくものは有りません」とのことでした。技の奥深さを痛感しました。

長本先生の師中山博道の指導法は、「決して言葉もって指導されず、体で覚えさせる」といった方法で、「自慢は芸の行き止まり」と自らに厳しく、道にも厳しかったとのことでした。

杉戸の稽古は、毎週月曜日なので退官後は、自宅に迎えに行きました。玄関を入ると居間に、剣道範士の御祝いに賜った、剣道範士九段小澤丘先生からの漢詩が、立派に額装され掲額されていました。また、母屋の片隅に2畳程に折り畳んだ台が立て掛けて有り、「これは何ですか」と尋ねると、「稽古台です」と言われ、キャスターの付いた台をスルスルと引き出し広げました。4畳程の稽古台(床)になり、座り技は、この台の上で稽古をされるとのことでした。先生が稽古の支度をしている間に、気さくな奥様がお茶を出してくださり世間話をしたものです。こんなことが有りました。奥様に、先生が「家庭を犠牲にしてまで稽古をしてはいけません」と、おっしゃっていましたがとお話すると「まあそんなこと」と高笑いをしました。長本家は、奥様でもっていたのかも知れません。

先生は、明治38年に北葛飾郡庄和町水角(現在の春日部市)で生まれ、平成2年8月14日逝去され享年85歳でした。長本家は、豪農で父は、村長を務めた家柄です。先生は、旧制粕壁中学校(現在の埼玉県立春日部高等学校)卒業後、中山博道の有信館で、大正12年から昭和6年までの8年間に弟子として中山博道に仕えました。家に帰れるのは年に1度、春日部中学の剣道大会に、中山博道先生のお伴で参るときだけでした。

当時の有信館は、荒稽古で有名で慣れぬ外来者は、横面で鼓膜を抜かれる荒っぽい歓迎を受けたそうです。居合は、剣道の余技としてしか扱われておらず、現在居合道が盛んになったのは、中山博道先生が武徳会(全日本剣道連盟の前身)に、居合道を独立した武術として採り入れた事が大きく影響しました。

その後、兵役を経て昭和26年に埼玉県立杉戸農業高等学校に赴任し、定時制課程の国語の教師として奉職し、昭和50年に退官されました。

居合道範士昭和53年、剣道範士昭和59年、杖道範士平成元年。

中山博道とは、埼玉の生んだ剣聖、高野佐三郎。そして双璧をなした中山博道。東京は九段下の高野の修道館。片や神田真砂台の博道の有信館。明治、大正、昭和の三代にわたり、同時代を歩んだ高野と中山。現代剣道は、この二人の名人の手により系譜する。(中山博道の記述は、埼剣連「あゆみ」平成7年刊行から)

新八段紹介

八段昇段にあたって

中野 堅司 (川口市剣道連盟所属)



この度、11月29日に日本武道館で行われました剣道八段審査会におきまして、10年目にして昇段させていただくことが出来ました。

これも偏に、埼玉県剣道連盟の先生方、諸先輩、剣を交えて頂きました剣友の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

48歳から八段審査に挑戦をはじめ、これまでに二次審査へ進むこともありましたが、いずれも気が散漫となり、相手に集中できず、理合と打突の機会も関係なく打ち込むような立ち合いとなっていました。特に、昨年の二次審査では、私には八段は遠いもの、無縁であるものと感じておりました。今回の審査をもって、京都の審査はやめようという思いで臨みました。一次審査・二次審査とも大きく発声することで、相手に集中することができ、左手の溜めを持って捨て身の技(面)を出せたことは、私にとって満足感のある審査となりました。

1年10か月前に、縁あって40歳代から70歳代の女性の稽古に参加させて頂くことになりました。79歳の女性の先生にご指導頂き、素振り、基本稽古、先生の元立ちによる実戦的な面打ちを週1回行い、前日に学んだことを翌日の稽古で試し、稽古毎に課題を持って取り組んできました。基本稽古では、「刀は上から下」となるように、左手・右脇から始動することを意識した竹刀操作を行い、打突時に下半身の動きが伴うように注意し、主に面打ちに取り組みました。稽古途中からは、必ず先生の元立ちによる実戦同様の面打ちを、1回の稽古で20本程打ち込ませて頂き、その都度改善すべき点をご指摘頂いてきたことは、私の剣道に大きく影響し、自分の剣道を見直すきっかけとなっています。

中学校の部活動を通して剣道を始め、これまでに多くの大会を経験させて頂き、八段昇段までに成長させて頂きましたのは、埼玉県剣道連盟の先生方、諸先輩、多くの剣友の皆様のお陰だと改めて心より感謝申し上げます。

今後も基本稽古を継続して、八段の名に恥じないよう精進して参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

平成29年度後期 8段・7段・6段昇段者一覧

| 剣道 | | | 6段(11月25日・東京) | | | 居合道 | | |
|-----------------------|-------------|-------------|---------------|------------|-------------|-----------|-----------|--|
| 8段 (11月29日・東京) | 森川 正純(浦和) | 小池 俊久(飯能) | 南湖 太郎(越谷) | 松澤 茂雄(小川) | 山下 未来(本庄) | 栗原 洋志(警察) | 早川 周一(高校) | |
| 中野 堅司(川口) | 関和 靖典(大宮) | 鈴木 宏和(東松山) | 澁江やよい(越谷) | 池之上康貴(川口) | 川久保 透(高校) | 後 雄士(高校) | | |
| 7段 (11月27日・東京) | 山崎 浩(鴻巣) | 矢野 圭介(東松山) | 中島 勝男(越谷) | 東 浩(川口) | (11月19日・愛知) | | | |
| 森下 謙次(八潮) | 上野真由美(北本) | 渡邊 恵一(東松山) | 金城 太郎(越谷) | 安達 篤子(川口) | 三戸 章義(東入間) | | | |
| 日高 昭三(越谷) | 穴戸 智行(警察) | 一色 伸悟(浦和) | 高橋 雅興(越谷) | 青木 邦真(川口) | | | | |
| 関口 良男(春日部) | 坂本 茂(警察) | 井上 章人(大宮) | 奥村 志保(吉川) | 山倉 真二(川口) | | | | |
| 渡辺 光広(久喜) | 瀧内 健治(狭山) | 東 真澄(大宮) | 石黒 一郎(春日部) | 大久保祐二(川口) | | | | |
| 町田 政義(幸手) | 小林 利光(狭山) | 奈良 悦子(北本) | 宮川 良輔(春日部) | 佐々木秀一(蕨) | | | | |
| 尾崎 文昭(幸手) | (11月28日・東京) | 新井 享(深谷) | 川上 和貴(杉戸) | 安田 武史(朝霞) | | | | |
| 中橋 隆夫(行田) | 武井 正之(草加) | 柳 博(警察) | 村上 圭司(加須) | 田原 太平(朝霞) | | | | |
| 川久保敏雄(行田) | 和田 豊秋(春日部) | 飯野 隆志(警察) | 川山 相成(加須) | 渡辺 文男(朝霞) | | | | |
| 石黒 三雄(狭山) | 大山 光洋(杉戸) | 二瓶 茂(浦和) | 遠藤 健志(所沢) | 藤井 明(朝霞) | | | | |
| 柳澤 哲夫(狭山) | 松本 博樹(久喜) | (11月18日・愛知) | 伊藤由美子(狭山) | 中村 太一(浦和) | | | | |
| 柴生田建司(東松山) | 鈴木 潤(所沢) | 忍田 昇一(幸手) | 野尻 昌利(川越) | 若林 裕樹(浦和) | | | | |
| 柳田 朗(川口) | 栗屋 聡(東入間) | 高木由美子(高校) | 笠原 肇(川越) | 宮北 守啓(大宮) | | | | |
| 川端 功(蕨) | 岩崎 佳世(川越) | | 五十嵐正義(西入間) | 武内 静(大宮) | | | | |
| | 青木 稔(飯能) | | 小畑 政幸(西入間) | 竹之下真奈美(大宮) | | | | |
| | | | 高見 敏(西入間) | 渡邊 典子(大宮) | | | | |
| | | | | 鈴木 徳昭(熊谷) | | | | |

編集後記

今回は全国教職員剣道大会での団体優勝、個人優勝(女子)、準優勝(男子)、また、11月の中野堅司先生の八段合格があり、編集の組み換え等慌ただしさもありましたが、原稿を依頼した皆様の協力あって発行に至りました。皆様のご指導を頂きながら読者の求める「剣風」となるよう努力致しますので宜しくお願い致します。(川合)